

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4390200410 | | |
| 法人名 | 株式会社 大淵産業 | | |
| 事業所名 | グループホーム清花 | | |
| 所在地 | 熊本県八代市郡築1番町109-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年2月3日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年4月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.gh-seika.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年2月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者がこれまで過ごしてきた暮らしを、清花でも営めるよう、職員は工夫し対応しています。看護師を配置し、ご利用者のいつもと違うわずかなサインも見逃さまい様にチームで連携しご利用者の健やかな暮らしを支えています。また、母体が米屋ということもあり、食には力を入れており、栄養バランスを考え、国産品・旬の素材・1日30品目を意識した献立作りを心がけ、内面からの健康づくりに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年により介護度も高くなってきたホームではあるが、入居者同士の仲睦まじい生活やこれまで大切にしてきた慣習の継続等入居者のあるがままを受け入れ、否定の無いケアに努めている。感染予防の徹底により罹患者も出さず、ホームに閉じこもりがちな日々から開放され、昔から継承される祭りの見学や家族との外出、移動販売での嗜好品の買い物等現状で出来る最大限の支援に努めている。入居者との関わりとして目線での声かけや横でのケア姿勢に理念の実践が確認され、入居者の主体的な生活を側面から支えている。家族とのコミュニケーションを図り、家族との良好な関係は防災訓練への参加意欲等に表われている。新年度からは新たな職員体制としてスタートする予定で有り、新たな基盤作りに邁進されることと大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|--|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づいたケアが提供できるように、更衣室や玄関に理念を掲示し、意識するようになっているが、新しい職員も増え、理念の共有が十分にできていない現状。勉強会等で振り返りを行って行く必要がある。 | 開設時からの理念を継続するホームでは、職員の入居者への関わりの中、例として入居者の目線での声かけや横でのケア姿勢に理念の実践が表われている。職員の入れ替りという状況にあり、理念を理解はしているが、ケアに繋がっているか等の振り返る時間を取ることは難しい状況にあったとしている。 | 新年度からは新たな体制となることが決まっており、新たな基盤作りに取り組まれることを期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナも5類となり、徐々に交流を再開している。利用者との近所の散歩や回覧板渡し、地域の清掃活動等にも参加している。 | 自治会に加入し、回覧板により地域活動をリサーチし神社の掃除や水路掃除等に参加する等地域の一員として活動する他、ホームに訪れるこの地に継承されている妙見祭見学や亀蛇の来訪時には近隣住民や家族も見学される等感染症が5類となりこれまでの様な交流に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域貢献まではいかないが、地域住民・施設関係者が集まる会議に参加し、グループホームの様子について情報発信している。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度からご家族や地域の方をお招きし、運営推進会議を開催している。ホームでの活動報告や、自分たちが抱えている困りごとなどもその場で意見交換が出来サービス向上につながっている。 | 運営推進会議の中で災害訓練を行ったり、家族の心配する事案について聞き取りする等双方向の会議が行われている。市役所から身体拘束についてのアドバイス等を得る機会としている。 | 町内からの参加が少ない状況とのことであり、あらためて参加への声かけを行ってみることも、参加者の発言も記録に残すことで更にサービスに生かされると思われ、検討いただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議にも毎回参加して頂けており、ホームの現状や、分からないことなどはその都度解決できている。また、介護報酬改定などの新しい情報も研修会などで教えて頂けたりと協力関係が築けている。 | 運営推進会議の中での状況発信や、事故があれば報告書を持ち届け直接説明しアドバイスを得ている。また、八代郡市のグループホーム連絡協議会に行政も参加し介護報酬改定等の情報を発信される等協力関係が築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は夜間のみで日中はすべて開放している。また、日々のケアを振り返り、不適切なケアに当たらないか、話し合う場を持ったり、定期的に勉強会を行い、考えるようにしている。 | 運営推進会議と同時に身体拘束等の適正化委員会を開催し、虐待の芽チェックリストにより振り返り、集計し職員との共有化及び委員会の中で結果を報告している。また、チェック項目の中でもし不適切ケアの場面を見たことがある場合には検討することとしている。更に職員個々がユーチューブを活用して勉強している。入居者の帰宅願望には外に一緒に出ている。管理者は職員に、一息ついて声をかける程度の余裕あるケアに努めて欲しいと投げかけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についても定期的に勉強会に参加し、日々のケアの振り返りを行っている。また、定期的に虐待の芽チェックリストでケアの振り返りをしたり、事例検討などで意見交換等している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の研修会に参加し制度についての学びを深めている。活用できるまでの理解には至っておらず、更に理解を深めたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時や相談時にしっかり話を聞くようにしている。また契約時にも不安や疑問点がないか話を伺い納得がいくまで説明する様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会時や運営推進会議など努めて声をかけ、要望や気づきなど話を伺うようにしている。また、その意見をチーム間で共有し必要に応じて代表にも伝え運営に反映している。 | 入居者毎に担当制として、訪問される家族に声を掛けコミュニケーションを図りながら意見や要望等を収集している。家族からは“して欲しいこと”等が挙っている。また、家族との旅行の再開に向けた要望や防災訓練に参加して見たい等運営推進会議への参加や資料の送付が相乗効果として表われている。また、敬老会案内をきっかけとしてボランティアとしてホームに関わってくださる等家族との良好な関係が築かれている。 | 運営推進会議への参加が功を奏し要望等も挙り、家族との交流も徐々に再開されてきている。家族との交流が家族会へと繋がることを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表との面接は年1回行われ、直接意見を聞く機会がある。また、毎月カンファレンスをこない、そこで出た意見や提案は管理者から代表に伝えられ、可能な限り反映されている。 | 管理者は、職員の仕事ぶりや頑張っている様子も見て欲しいとして代表との面会をスタートさせたことで労働環境などを伝える機会に繋げる等法人の3グループホームが働きやすい環境に取り組んでいる。業務上の問題点等は毎月のカンファレンスで話し合い、物品購入等は代表に上申する体制として、感染防止として部屋食になること等を鑑みテーブル等が新たに用意されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表や管理者は職員との面談の機会を設け職員の意見や提案を聞く機会が設けられ早出遅出手当が追加されたりと、少しずつ反映されてきているが、職員が納得するような回答は得られていない様に感じる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 興味のある研修には積極的に参加できるように勤務調整をしたり、経験年数や本人のモチベーションに併せて、スキルアップの為に研修への参加を勧めたりしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会の研修会も再開され、研修会への参加を通し他事業所のスタッフとの交流、意見交換ができています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に必ずご本人に会い、話をし、何に困っているのか、不安に感じている事、要望などを伺い、入居時から安心して生活が送れるような支援に繋げている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に見学・申し込みに来られた時にご本人・ご家族の求められる事やこれまでの経緯などを傾聴し、ホームではどのように対応ができるのか、細目に話し合い信頼関係が築けるにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人・ご家族・担当ケアマネージャーなどから話を聞き、入居する事だけにとらわれず、他のサービスも含め検討するように気を付けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が何でもしてしまうのではなく、共に生活する関係である事を大切に、掃除や洗濯、買い物など協力しながら生活出来る関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族と共に支え合う関係を大切に、報告・相談は欠かさず行っている。面会時のご家族と一緒に歩行訓練をしたり、食事介助をお願いしたり共にご本人を支援するように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場所を大切に、以前通われていたお店に出かけたり、ご兄弟でよく行った場所に出かけたりと、関係を継続できるような支援を心がけている。 | 定期的に遠方から帰省し入居者とのドライブや神社を参拝される姉妹や、自宅への外出、行きつけの美容室の利用、この地に継承されている亀蛇来訪や全国花火大会をホームから観賞する等馴染みの場・人との関係が途切れないよう支援している。晩酌や移動販売での買い物、お裁縫をされる入居者や、十六夜にはススキを飾り、彼岸のおはぎ・ぼた餅とこれまで慣習や経験を継続出来るよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士の関係性を見ながら、必要時間に入り会話をを行い良い関係性が築けるように支援している。ご利用者同士助け合う姿が見られたり、楽しそうに昔話をする姿もよく見られる。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も必要に応じ他の施設や病院などに情報提供したり、新たな居住先での生活がスムーズに移れるよう支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | まずはご本人の気持ちを聞き思いに寄り添えるケアを目指している。意思表示が困難なご利用者の気持ちの把握が十分ではなく常にご利用者の思いを知る為の努力が必要だと感じる。 | 入居者の意思を大切にケアに努めるとして何かをやる前には意思を確認すると共に、意思表示が困難な状況には職員が表情や様子等を推察している。自分の思いを出されない方、言うことをためられる入居者には目線での声かけなど思いを引き出す工夫をし、“帰りたい、子どもが心配”等の声に応えドライブや散歩に出かける等その時々のお思いに応えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご利用者と関りのある方から可能な限り情報を頂き、馴染の暮らしが提供できるような環境づくり・声掛け等支援に繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 暮らしの現状把握の為に、ご利用者の些細な変化も見逃さない様気を付けている。体調面や心の状態なども含め、いつもと違うと感じたことは記録に残し職員間で共有できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々のケアや、関りの中からお本人の想いや要望を把握し、よりよく暮らす為のあり方をカンファレンス等で話し合いプランに反映している。 | 毎月のケアカンファレンスや3ヶ月毎のモニタリングにより実践状況や達成度や方向性を見極め、半年毎や退院後の見直し等状態に応じたプランを作成している。不安の無い暮らしの継続に向けた具体的な内容や本人の望む暮らしをさせて欲しいとする家族の思いに応えたプラン等個別的なプランが作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の変化は個人記録に残し、職員間で共有できるようにしている。プランに沿ったケアが出来ているか、プラン変更が必要な事はないか毎日評価し必要時見直しの提案もしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 開設して4年目でサービスが固定化し、ご利用者のニーズに合わせ新たなサービスの提供までは出来ていない現状。柔軟な取り組みを検討していく必要があると感じる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染対策でなかなか地域に出向くことが出来ていなかったが、今年度は徐々に活動できるようになってきた。さらに地域資源の情報を集めご利用者の楽しみに繋げて行きたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医を継続して受診して頂けるように支援している。受診はご家族にお願いしているが、必要に応じて受診付き添いをし、現状報告したり、情報提供書を渡したりし対応している。 | 全入居者がこれまでのかかりつけ医を継続し、訪問診療や受診にて対応している。受診の際には家族の付添いとして、情報提供書の作成や事前確認によりかかりつけ医と連携し、家族からの質問等に対応しスムーズに受診できる体制を整えている。日々のバイタルチェックは出勤者の誰もが行き、表情や顔色等いつもとの違い等気になる点があれば看護職員への報告としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日頃よりご利用者の体調変化に注意し観察し、異変時は都度看護職員に報告・相談し早期に対応することが出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は必ず職員が情報提供書を持参し病院に行き、ホームでの様子やケアについて申し送りを行っている。入院中もご家族や病院関係者に連絡をし情報を得たりし、可能な限り早期の退院を目指している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に医療連携体制指針で終末期についての説明を行い、希望があれば看取り支援まで取り組んでいる。ご利用者の重度化した時は細目に方針についてご本人・ご家族・かかりつけ医で話し合い、情報を共有し支援に取り組んでいる。 | 家族の希望により看取りまでの支援に応じるとして、入居に当り家族へ説明したうえで事前指定書で意向を確認している。入居者の状態に変化があれば、そのを都度家族へ報告している。医師の判断のもと必要な時点で家族と今後の対応について話し合い改めて意向を確認している。 | ほとんどの家族が看取りまでの支援を希望されており、支援後はケアの内容を振り返る機会を作っている。カンファレンスの中で、最期の場に立ち会って良いものかといった感想が出ており、課題の一つとして今後支援する家族の思いを確認しておく事も必要で思われ、検討していただきたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応について定期的に研修をしているが、実践力を身に付けるまでには至っておらず、デモンストレーションなども取り入れて行きたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害訓練を定期的実施し避難方法について訓練している。また、訓練での気付きは訓練後に話し合い、BCPにも反映するようにしている。地域との協力体制についてはまだまだ十分ではないので今後関係を築いていきたい。 | 定期的に火災訓練を実施し、日中台所を火元と想定した訓練では入居者とともに避難している。備蓄品の一覧表を作成して目に付く所に掲示し、欠品や期限の確認が出来るようにしている。BCPは作成済みであり、さっそく勉強会を設けているが、共有するまでには至っていない。 | ホーム周辺は用水路の多い地域であり、今後BCPを活用して自然災害(大雨等)の訓練や、家族や地域住民との協力体制に着手されることが期待される。 |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日頃よりご本人の気持ちや思いを大切に考え支援するように心がけている。ご利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない様な声掛けやケアが出来ているか、職員同士お互い声掛け合いながらケアに当たっている。 | 職員は一人ひとりの生活歴を把握し、これまでの暮らし方や考えを尊重して支援している。呼称は苗字やこれまで呼ばれていた下の名前で対応し、中には現役時代の呼ばれ方で対応している。カンファレンスで現役時代の呼ばれ方について話し合い、未だに誇りも持って生活されているとして家族との話し合いが行われている。職員は守秘義務を尊重し、個人情報保護について家族と同意書を書き交わしている。 | 新年度を前に、ボランティア等の来訪者や運営推進会議参加者等守秘義務や個人情報の保護について法人全体で統一した見解を示されることが期待される。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何をするときでも、まずはご本人の意思を確認することに気を付けて日々のケアに当たっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の決まった日課はあるが、それにとらわれることなく、ご本人のその日の体調や希望を聞きながら可能な限り希望に添えるように工夫している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装は自分で選べる方は自分で好きな洋服を選んで頂いている。気温や季節に応じた装いになるよう声掛けしている。散髪も美容院の方に自分の希望の髪型を伝えられるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事が楽しみになるように、献立はご利用者に食べたいものを聞きながら職員が考えている。以前のように一緒に調理をしたりが出来ていないが、お盆拭きや台ふき、おかずの小分けなど出来る事を出来る範囲でお手伝いして頂いている。 | 法人3事業所が入居者の好みを反映した献立表をもとに手作りの料理を提供している。魚が苦手とする方へは肉料理を代替えとして準備し、誕生日にはその方の好物を作っている。入居者もお盆拭きや小鉢の盛り付けなど出来る事を手伝い、地元の食材を使った食事は入居者の楽しみになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立作成時に栄養バランスに気を付けるように心がけている。偏食のある方には希望の食事を提供したり、栄養補助食品等も使いながら、必要な栄養、水分量が摂取できるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時・毎食後に口腔ケア声掛け支援している。必要に応じ歯科往診依頼してリ、仕上げが必要な方には介助したりしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努めている。排泄の仕方が分からなくなったり、トイレの失敗を隠そうとしたりさまざまであるが、必要な支援を必要な方法で提供できる様日々試行錯誤している。 | 自分でトイレに行く方や、個別のチェック表で時間的な誘導をしながら日中はトイレでの排泄を基本として支援している。昼夜を通しポータブルトイレの使用は無く、ベッド上でのおむつ交換や、リハビリパンツの方には夜間帯も見守りや介助によりトイレでの排泄としている。職員は一人ひとりの時間帯や尿量を見ながら、個別の排泄用品を選択し、心地よく過されるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく薬に頼らず自然排便を促せるように、毎朝自家製ヨーグルトを提供している。また、牛乳を提供したり、腸の運動を促すためレクレーションで体操を取り入れたり工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間にこだわりのある方はその時間に対応できるように支援している。季節に応じたのしょうぶ湯や柚子湯なども行い入浴を楽しんでいただいている。また、冬場はヒートショックに気を付ける為、脱衣所と浴室を十分に温めて入浴介助するようにしている。 | 入浴の時間や回数を強制すること無く、希望する時間帯やタイミングを見ながら支援している。浴室は衛生的に管理され、冬場はヒートショックに注意を払いながら、ゆずや菖等により楽しみある入浴としている。入居拒否のある方には会話を工夫しながら入浴を進めており、毎日の入浴や2日～3日置き、夕方六時頃から入浴する方等個別に対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間、就寝時間ともご利用者ごと希望に沿った時間に対応している。冬場は布団に入った時に温かい様に電気毛布を使ったり、加湿器で乾燥に注意したりと心地よく眠れるための支援を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬情報は全員分ファイルに保管し最新の服薬情報がすぐに確認できるように工夫している。服薬変更時や臨時薬が出た時などは薬袋や記録に分かるように記載し職員間で情報共有に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者の生活歴や持っている力などから、ホーム内でも出来る事はなるべく自分でして頂けるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナも5類となり、以前の様な外出支援が行えるようになってきている。日々の買い物に始まり近所の散歩、ご家族と馴染みの場所へ出かけたり、初詣や花見などご本人やご家族の希望を聞きながら、可能な限り支援できる様している。 | 感染症の5類移行を機に少しずつ外出を増やしている。コロナ禍で聞かれていた「どこかに行きたい」等の入居者の声も今では聞かれず、家族との外出や花見学(桜・ブーゲンビリア、あじさい等)、毎週1回の移動販売での嗜好品の購入等可能か限り支援している。 | 新型コロナウイルス感染症以前には家族との旅行が行われており、「再びそのような機会が訪れたら」との職員の声も挙っている。まずは遠方では無くても入居者と家族・職員とのひとときを過してもらえよう企画に期待したい。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分でお金を管理したいと言われる方はその気持ちに添えるよう支援している。所持することは困難でも買い物の楽しみは味わって頂けるよう、移動販売等で好きなものを帰るよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | お孫さんやご兄弟からお手紙が届いたり、電話でお話をしたりとやり取りがある。また、遠方でなかなか会いに来られないご家族へは、写真付きの手紙を郵送したり様子を報告したりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は季節に応じた作品を飾ったり、外出時の写真を掲示したりしている。またご利用者が自宅に戻られたときに庭に咲いていたお花を持ち帰りフロアーに飾ってくれたり、職員が持参したひな人形や兜が飾られ、季節感が取り入れられるよう工夫している。 | 感染対策として、共有空間の衛生管理を徹底し、椅子や手すりなどの細部にわたり消毒を行っている。壁面の飾り付けは入居者も手伝え、庭の花を摘んでリビングに飾ったり、雛人形等が季節感を醸している。食後はテーブル席からソファに移動して職員との談笑やテレビを見たり、居室で趣味のパッチワークを行う入居者等思い々に過されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやテレビ、テーブルの位置を工夫し、共用スペースにいながらも、一人になりたい時は和室に行ったり、みんなで話したい時はホールに来たりと思い思いに過ごせる空間が出来た。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前の説明の時、なるべく本人の使い慣れた品物を持参して頂くよう説明している。タンスやテレビ、椅子や本、写真などこれまで過ごした環境に近づけるようにしている。 | 入居前に家族に居室への持込み品についてリストをもとに説明し、個々の判断により必要な物を持参して貰うようにしている。持ち込まれた冷蔵庫には好物のアイスや飲み物を入れたり、自宅で使いなれたマッサージチェア等が置かれる等自宅の沿線として居る居室等もある。車椅子利用者や入居者の動線を考慮し物品の配置を決め、使い勝手のよい住環境としている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | できる事・できない事の把握に努め、何でもしてしまうのではなく、どうしたら自分で出来るのかを考えながら関わるように気を付けている。 | | |